

気候変動:初心者向け

グループサポートトレーニング

2026年6月



留意事項

- 本トレーニングは、「気候変動:初心者向け」セッションです。
すでに開示経験があり、改善に向けたトレーニングをご希望の場合は、別セッション「気候変動:経験者向け」をご確認ください。
- よくあるご質問は動画終盤でご確認いただけます。
その他ご質問は、CDPヘルプセンターへお問い合わせください。
- 本トレーニングの無断掲載は禁止しております。





アジェンダ

CDPの概要

質問書へのアクセス

初心者向けロードマップとスコア

重要データの概要

開始ステップと主なリソース

CDPの概要



CDPは世界最大の環境情報開示プラットフォーム とサプライヤーネットワークを運営

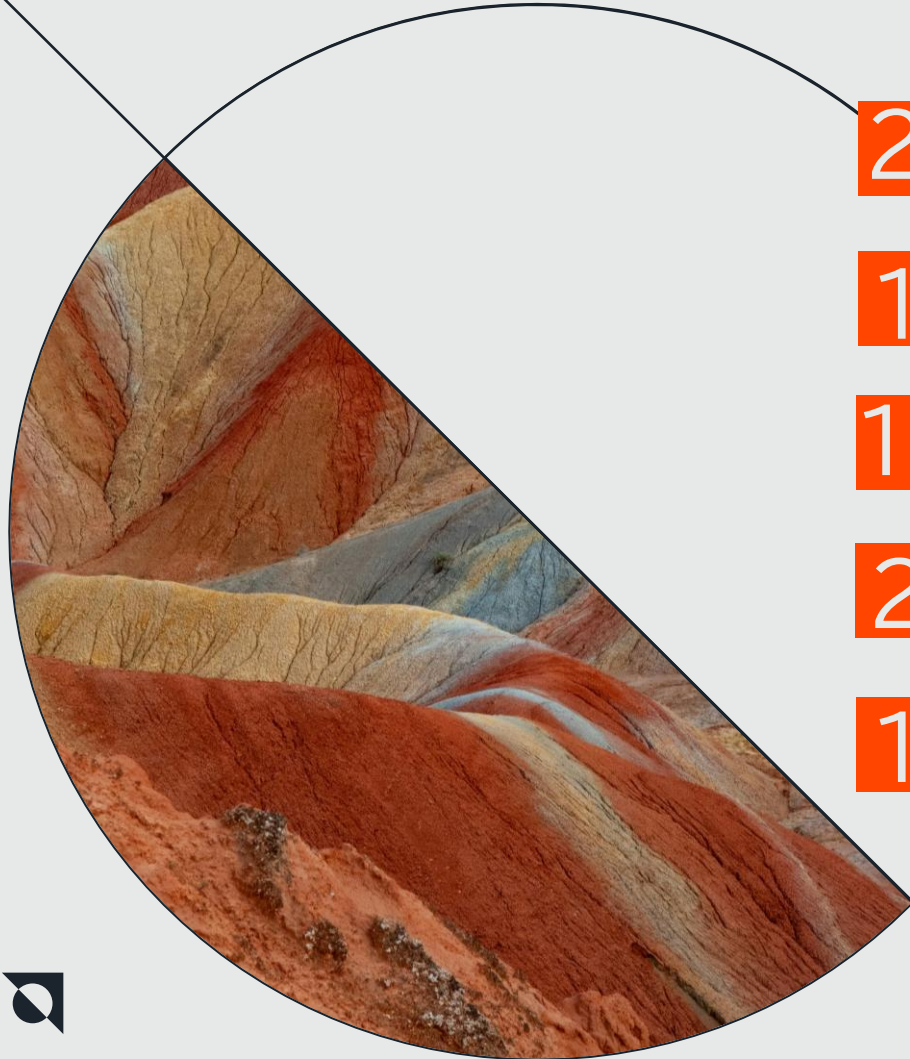
270+ のサプライチェーン・メンバー：マイクロソフト、ウォルマート、ユニリーバ、ロレアルなど

110兆ドル の資産を持つ540以上の金融機関

10,900+ の中小企業が開示

22,100+ 世界時価総額の3分の2に相当する企業が開示

110カ国 2025年、企業の開示拠点は約110カ国に及んだ。

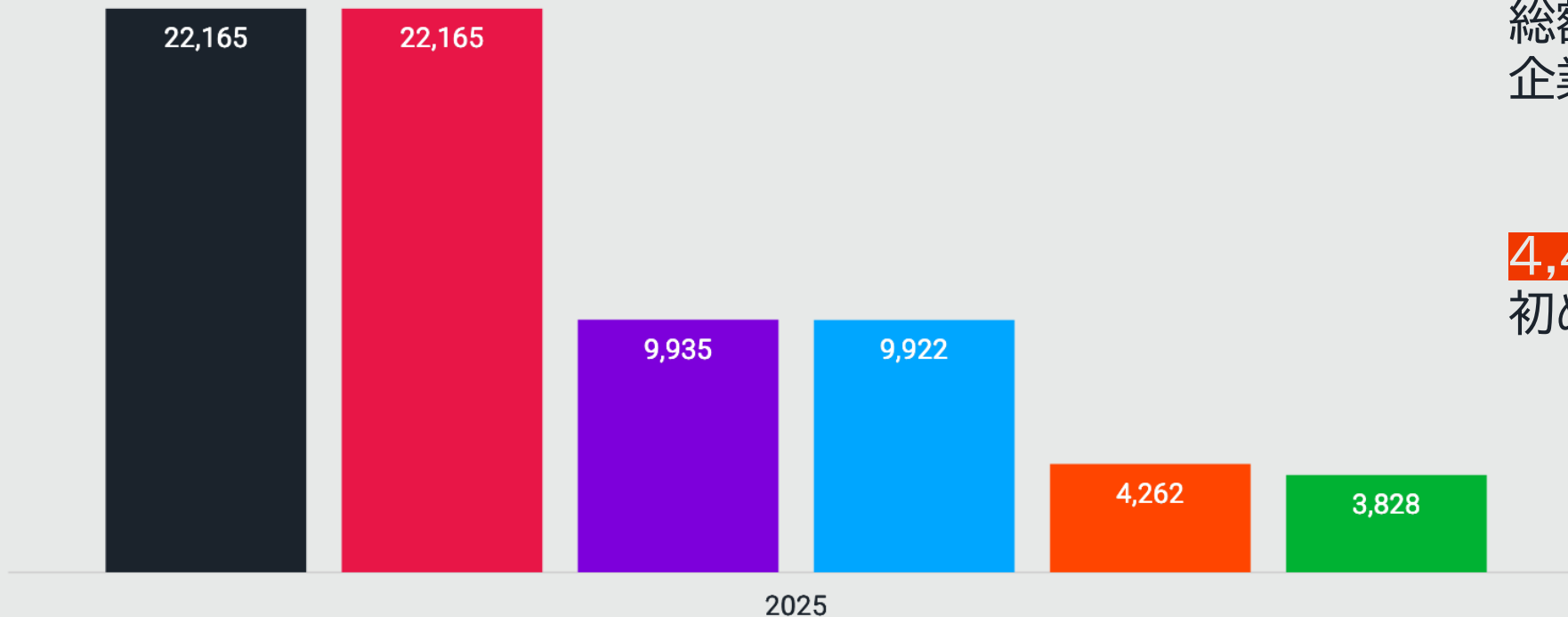


CDPを通じた開示企業数は高い水準を維持



環境課題別の開示企業数(2025)

■ 開示企業数(合計) ■ 気候変動 ■ 生物多様性 ■ 水セキュリティ ■ プラスチック ■ フォレスト



22,100+: 世界の時価総額の3分の2に相当する企業が開示。

4,400+: 2025年に初めて回答した企業数

なぜ情報開示をするのか



競争力を維持するための リスクと機会の把握

- 環境リスクは財務リスクに直結する。
- 上流のスコープ3排出量は、企業のスコープ1,2排出量の約26倍。
- 気候変動に対応したビジネスへの転換により、16兆ドルの新たなビジネス機会が見込まれている。



効率化と収益成長の推進

- スコープ3対策により年間130億ドルのコストを削減
(昨年のCDP開示企業による報告の合計)
- 適応策への1ドルの投資あたり2~19ドルのリターン
- サステナブル商品の売上は最大25%増加の可能性



資金調達環境の改善と 財務パフォーマンスの向上

- 世界の総資産の約25%を運用する投資家がCDPデータを活用
- CDPスコアに基づく優遇融資の実績として、25億ドル規模の融資が挙げられる。



規制対応を先取り

- 環境情報開示の義務化が世界的に進展
- 「一度の開示で複数用途に活用」でき、報告負担を軽減

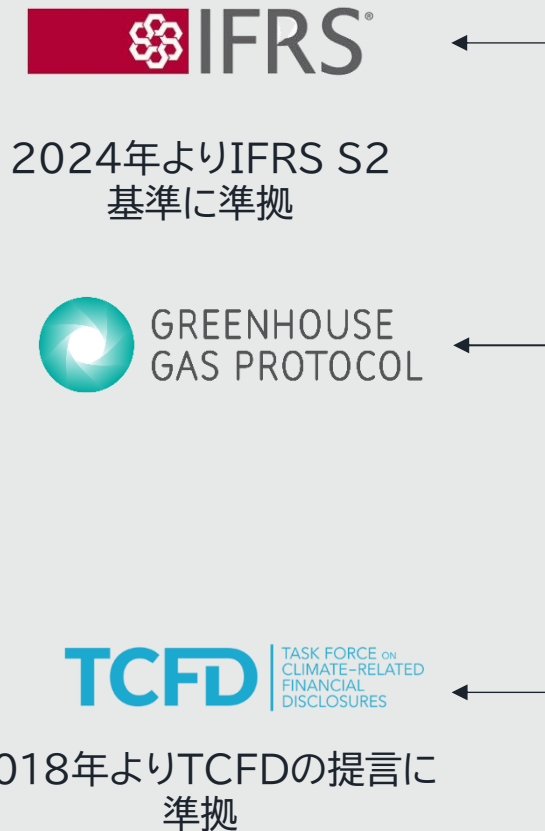
CDPを通じて情報開示を行う企業は、最短2年で直接排出量を**7~10%**削減できる可能性があり、開示は単なる形式的な作業ではなく、実質的な改善につながる取り組みであることが示されている。



世界中の基準に準拠した開示を可能にする

CDPは、基準を組織が活用できる具体的な形に変換します。回答し、実行すべき質問やデータポイントを提供し、この質の高いデータを単一のデータセットとしてステークホルダーや市場に還元します。

整合済み



整合性の拡大



2026年の開示スケジュール



準備期間

開示期間

知見へのアクセス

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

4月20日週
質問書データベース
の公開

6月15日の週

CDPポータルが
開示企業向けに
オープン

9月14日の週

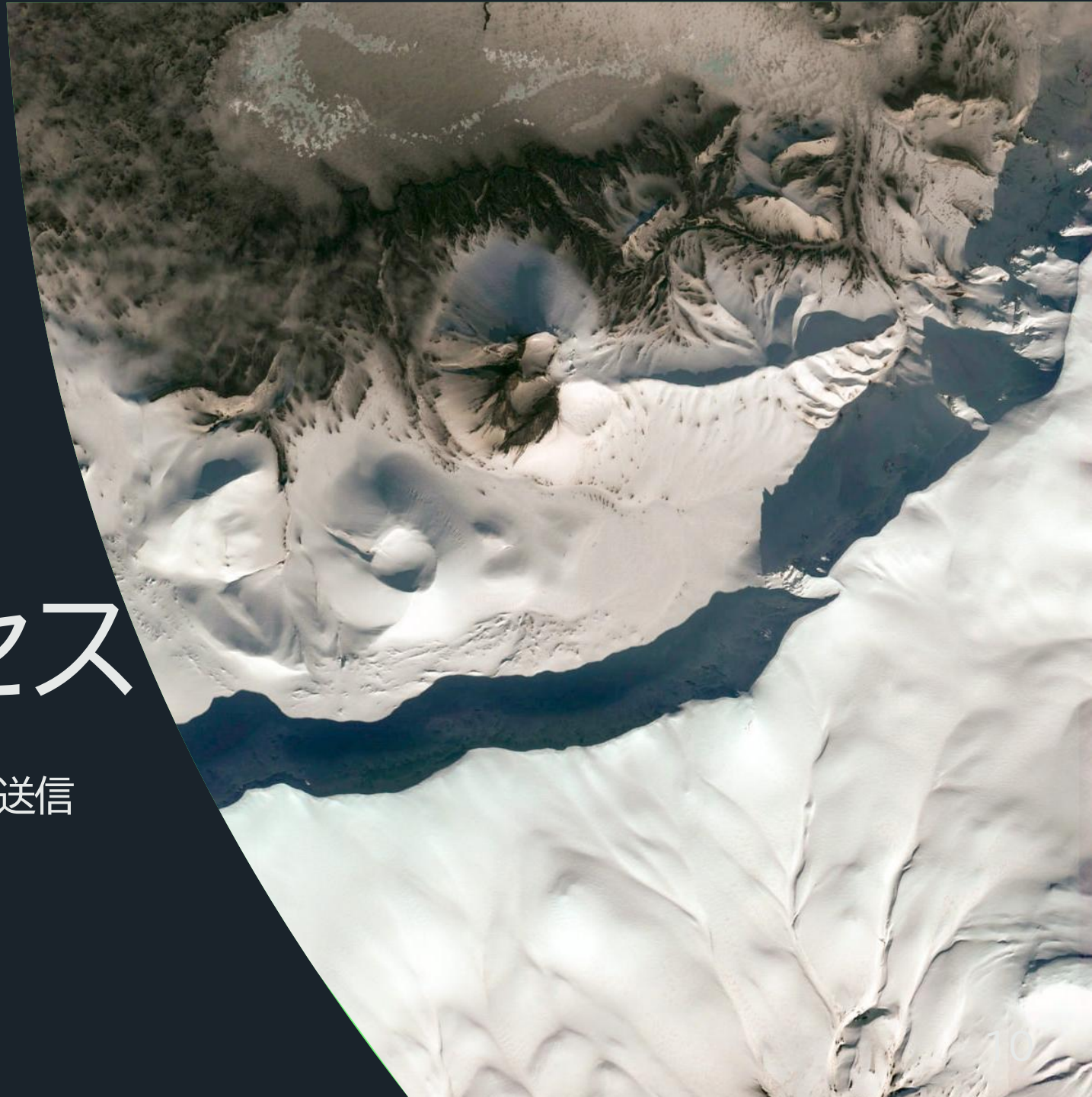
スコアリング
対象となる
回答提出期限

11月30日の週
2026年のスコアが
CDPポータルで公開

10月26日の週:スコアリング
対象外となる回答提出期限

質問書へのアクセス

CDPポータルでの操作、要請、および質問書設定の送信



質問書へのアクセス

初めて回答される場合は、貴組織へ以下のいずれかの招待が届きます。

1. mail@cdp.netから送信されるmyportal.cdp.net アクセスのご案内
2. 要請元から送信される、ユーザー名とパスワードを設定するための有効化リンク
3. 要請元からポータルアクセスのために送信される「開示登録フォーム」のリンク

迷惑メールフォルダも必ず確認し、mail@cdp.net が組織のIT部門によってホワイトリストに登録されていることをご確認ください。

(注:すでにアカウントをお持ちの場合は、以前のユーザー名とパスワードを使用してサインインしてください。)

質問書へのアクセス

ポータルの初期設定と質問書の設定

1

CDPポータル
にアクセスする

2

提出責任者
の確認

3

回答要請の確認
(遅延要請や
子会社からの要請等)

4

回答事務費用の
ステータスを選択

- 取引先要請のみ:
「回答事務費用なし」
- CDPキャピタルマーケット
による要請:
「回答事務費用を選択」

5

質問書の設定
を完了する

質問書へのアクセス


その他のリソース

ナレッジベースの記事:

- 情報開示組織向け:
CDPポータルの利用方法

関連ウェビナー:

- CDP情報開示ウェビナー
(初回企業向け)




CDP情報開示ウェビナー (初回答企業向け)

2026年 CDP情報開示ウェビナーシリーズ第1回

2026年6月3日

ご注意:

- ご質問はQ&Aボックスからご投稿ください。回答開始は質疑応答の時間帯となります。
- ウェビナー終了後は、アンケートへのご回答にご協力をお願いします。
(情報提供・支援体制向上のため)
- 本ウェビナーのCDPによるスライドおよび録画は、すべての登録者にお送りいたします。但し、ゲストスピーカーについては許可が下りたもののみとなります。
- 本ウェビナー録画・資料の無断掲載は禁止しております。



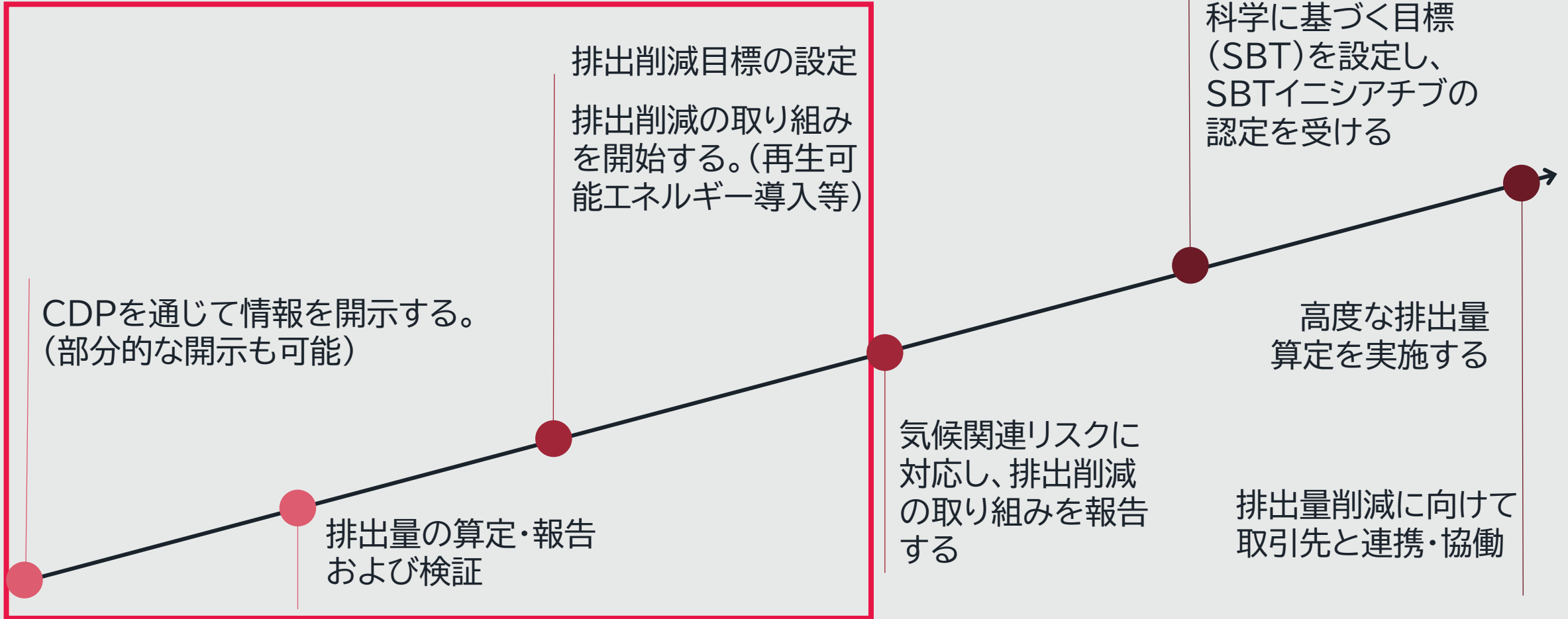
初心者向け ロードマップとスコア



開示者向けロードマップ



本セッションの範囲:



フェーズ1: 基盤の確立

フェーズ2: 能力の構築

フェーズ3: パフォーマンス向上

スコアリングの原則

スコアリングは、企業が環境への影響を測定・管理する取り組みを後押しする、CDPの重要な仕組みです。

CDPのスコアリングは、

- 透明性の高い開示を促し、企業が環境への影響にどのように対応しているかを評価します。
- 取引先やステークホルダーが貴組織を理解し、行動につなげられるデータを提供します。

スコアは、報告年度に提出された回答内容に基づいて評価され、企業の環境影響の把握・管理に向けた取り組みレベルを示します。また、スコアリング対象となる回答提出期限2026年9月14日の週までに質問書を提出することで、スコアが付与されます。



まずは、CDP2026年質問書・ガイダンス・スコアリング基準(英語/日本語)をダウンロードいただき、スコアリングの詳細は、「CDPコーポレート完全版質問書スコアリングイントロダクション」(英)をご参照ください。また、カテゴリーマッピング(英)を通じて、どの質問がスコアリング対象となるかを確認し、カテゴリーウェイト(英)では各モジュールに割り当てられた重み付けを理解することができます。

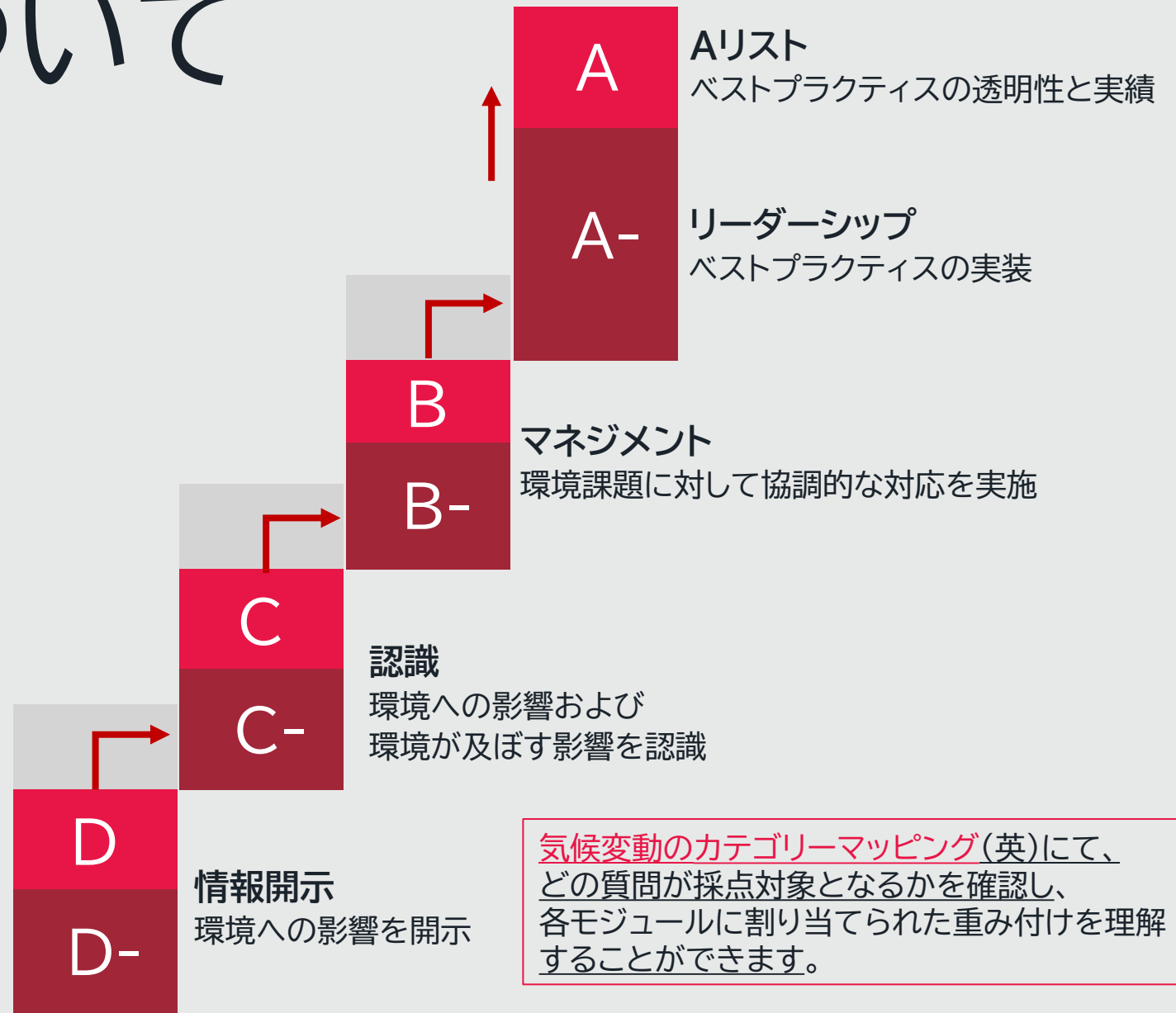


CDPスコアについて

CDPスコアは、企業の情報開示状況および環境パフォーマンスの概況を示すものです。

スコアは、報告年度中に企業が環境への影響を評価・管理するために実施したと報告された取り組みのレベルを示しています。

CDPの[2026年の質問書と報告ガイド](#)、[スコアリング基準](#)から詳細をご確認いただけます。



必須要件の適用

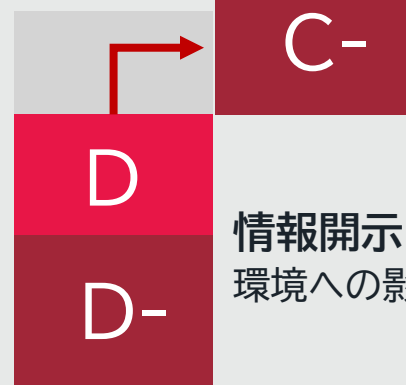
企業が次の評価レベルに進むためには、まず各レベルで定められた最低限の要件を満たすことが前提となります。

必須要件に関する最新資料

- [気候変動 \(英\)](#)
- [水セキュリティ\(英\)](#)
- [フォレスト\(英\)](#)



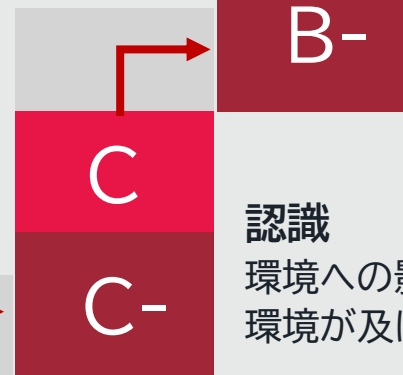
認識レベルの全ての必須要件を満たす



情報開示

環境への影響を開示

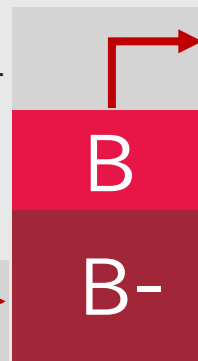
マネジメントレベルの全ての必須要件を満たす



認識

環境への影響および環境が及ぼす影響を認識

リーダーシップレベルの全ての必須要件を満たす



マネジメント

環境課題に対して協調的な対応を実施

Aリストの全ての必須要件を満たす



B

マネジメント

環境課題に対して協調的な対応を実施

B-

C

認識

環境への影響および環境が及ぼす影響を認識

C-

D

情報開示

環境への影響を開示

D-

A

Aリスト

ベストプラクティスの透明性と実績

A-

リーダーシップ

ベストプラクティスの実装

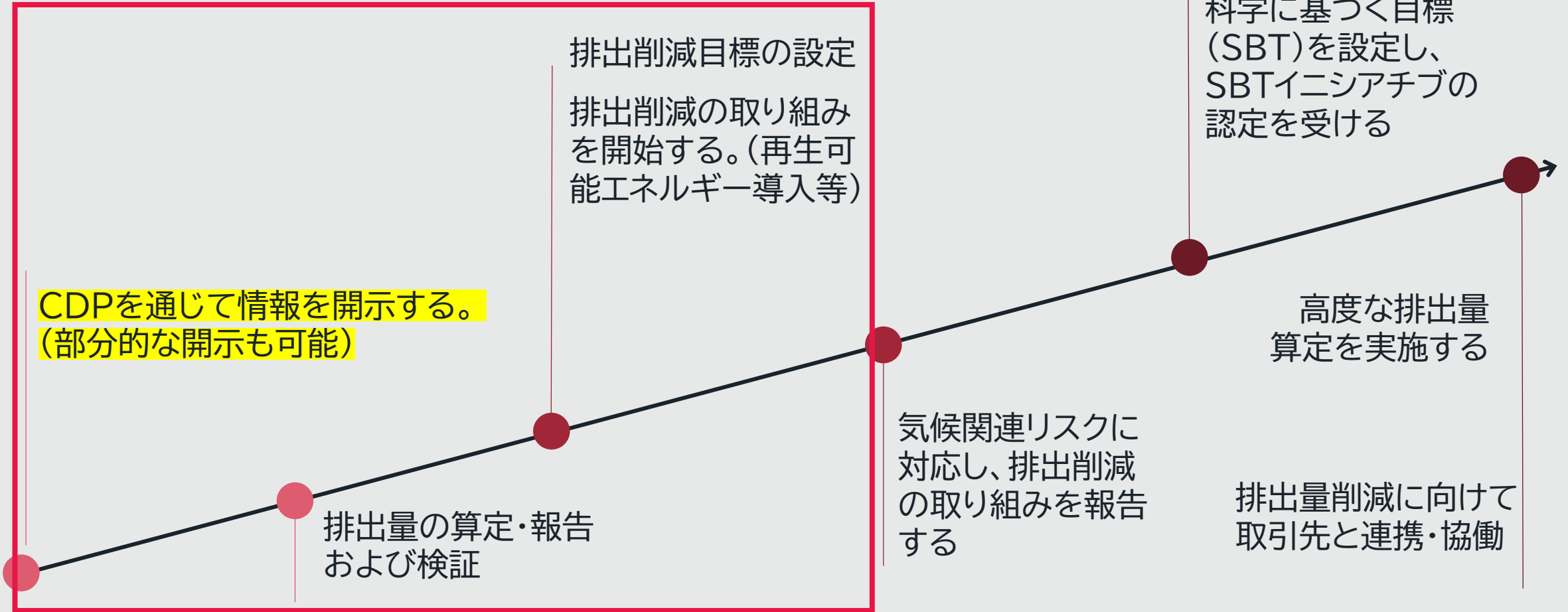
重要データの概要



開示者向けロードマップ



本セッションの範囲:

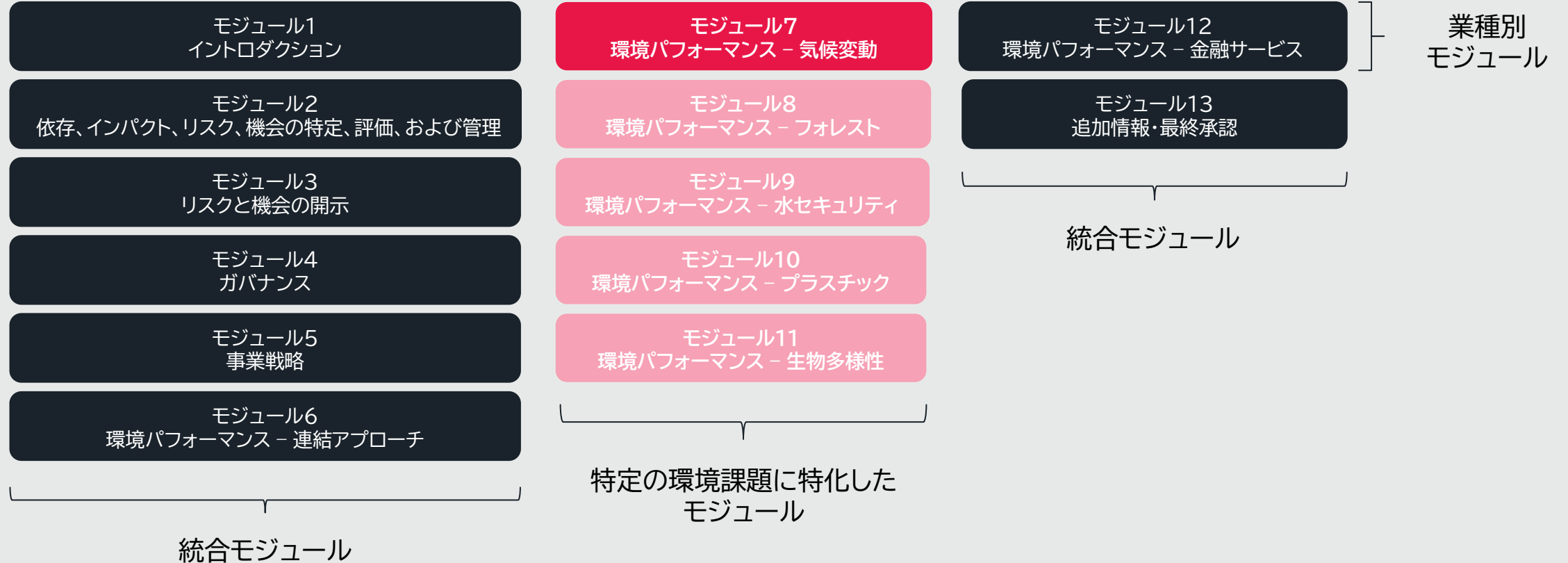


フェーズ1: 基盤の確立

フェーズ2: 能力の構築

フェーズ3: パフォーマンス向上

コーポレート質問書：完全版



統合モジュールの質問例

4.1.1 : 貴組織では、取締役会レベルで環境課題を監督していますか。

環境課題	この環境課題に対する取締役会レベルの監督	この環境課題に対して取締役会レベルで監督を行わない主な理由	この環境課題に対し、貴組織がなぜ取締役会レベルでの監督を行わないかを説明してください。
気候	<ul style="list-style-type: none"> • はい • いいえ、しかし今後2年以内に行う予定です • いいえ、そして今後2年以内にそうする予定もありません 	<ul style="list-style-type: none"> • 内部リソース、能力、または専門知識の欠如（例：組織の規模が原因） • 標準化された手順がない • 当面の戦略的優先事項ではない • 重要でないか、関連性がないと判断した • その他、具体的にお答えください 	自由記述
水セキュリティ			
フォレスト			
海洋			
生物多様性			

ポイント：報告範囲の設定

貴組織の報告範囲とは、開示の対象となる、または対象外とするグループ会社、事業部門、子会社などの組織単位を指します。

これにより、要請者は、回答内容が貴社の事業活動とどのように関連しているかを、より理解しやすくなります。

完全版 1.5、6.1	SME版 14.5、 19.1
----------------	-----------------------

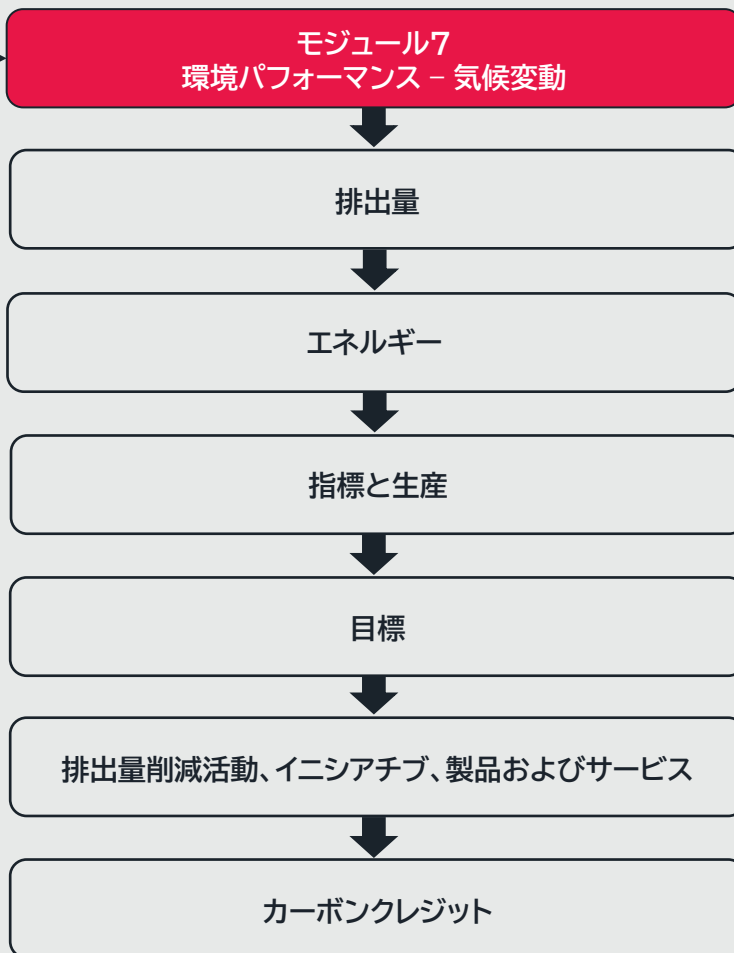
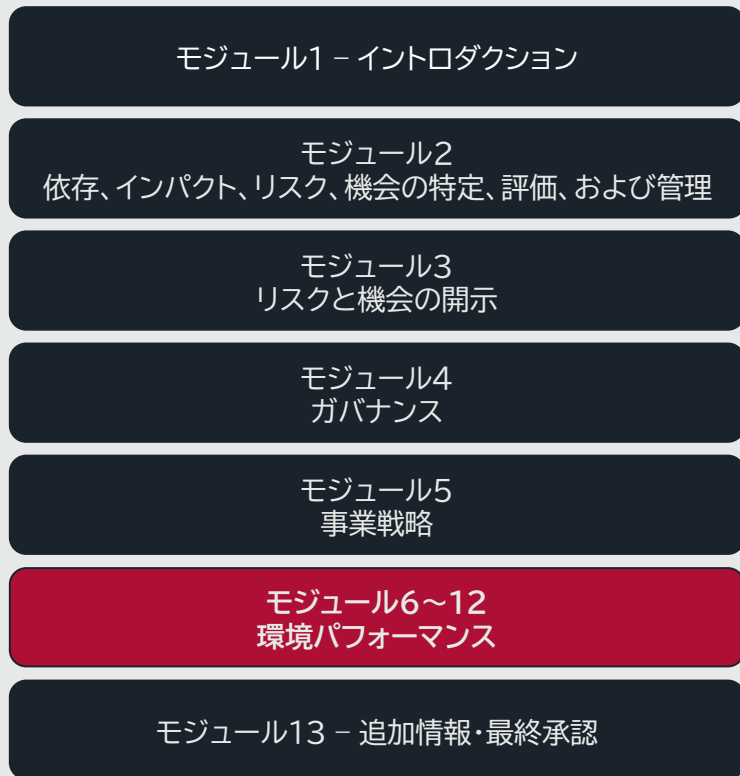
報告範囲の取り扱い方法

- 財務支配力基準(Financial control approach)
- 経営支配力基準(Operational control approach)
- 出資比率基準(Equity share approach)
- その他基準(Other approach)

参考資料：

1. 温室効果ガスプロトコル 企業基準(英)
2. SBTNテクニカルガイダンス ステップ1 評価(英)

モジュール7： 環境パフォーマンス – 気候変動



カーボンフットプリントの測定に関するベストプラクティスを推奨しています。これは、環境への悪影響を理解し、削減するための前提条件となります。

正確な排出量の算定には、エネルギー使用状況の包括的な報告が不可欠であり、それを推進しています。

排出量の実績を、炭素排出の多い生産活動といった他の経営指標と組み合わせて、より適切に評価できるようにしています。

排出量の削減と気候変動に関連する課題の効果的な管理に対する取り組み姿勢を確認しています。

排出削減のために実施された取り組みと、その取り組みによって得られるメリットを明確にします。

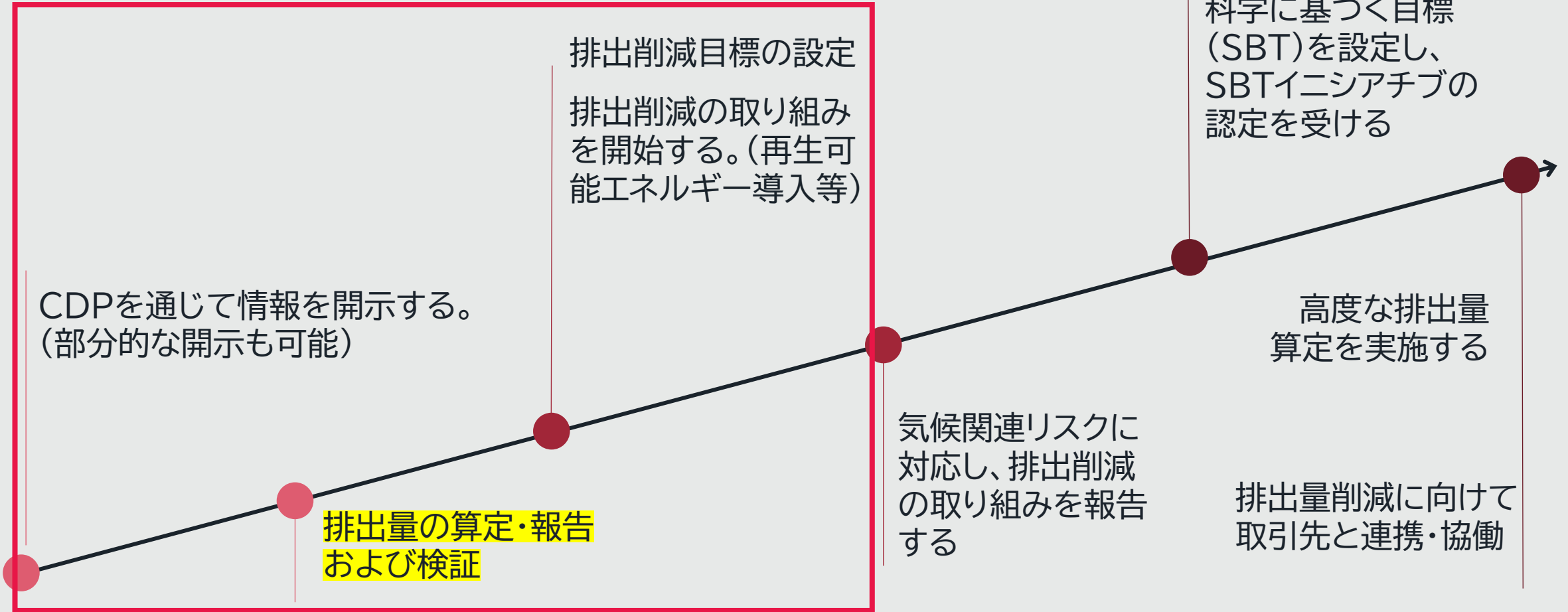
低炭素社会への移行を支援するために組織が使用しているカーボンクレジットと、そのクレジットの質に関する透明性を提供します。



開示者向けロードマップ



本セッションの範囲:



フェーズ1: 基盤の確立

フェーズ2: 能力の構築

フェーズ3: パフォーマンス向上

排出量算定について

事業活動に伴う排出量

スコープ1

報告企業が直接排出する温室効果ガス

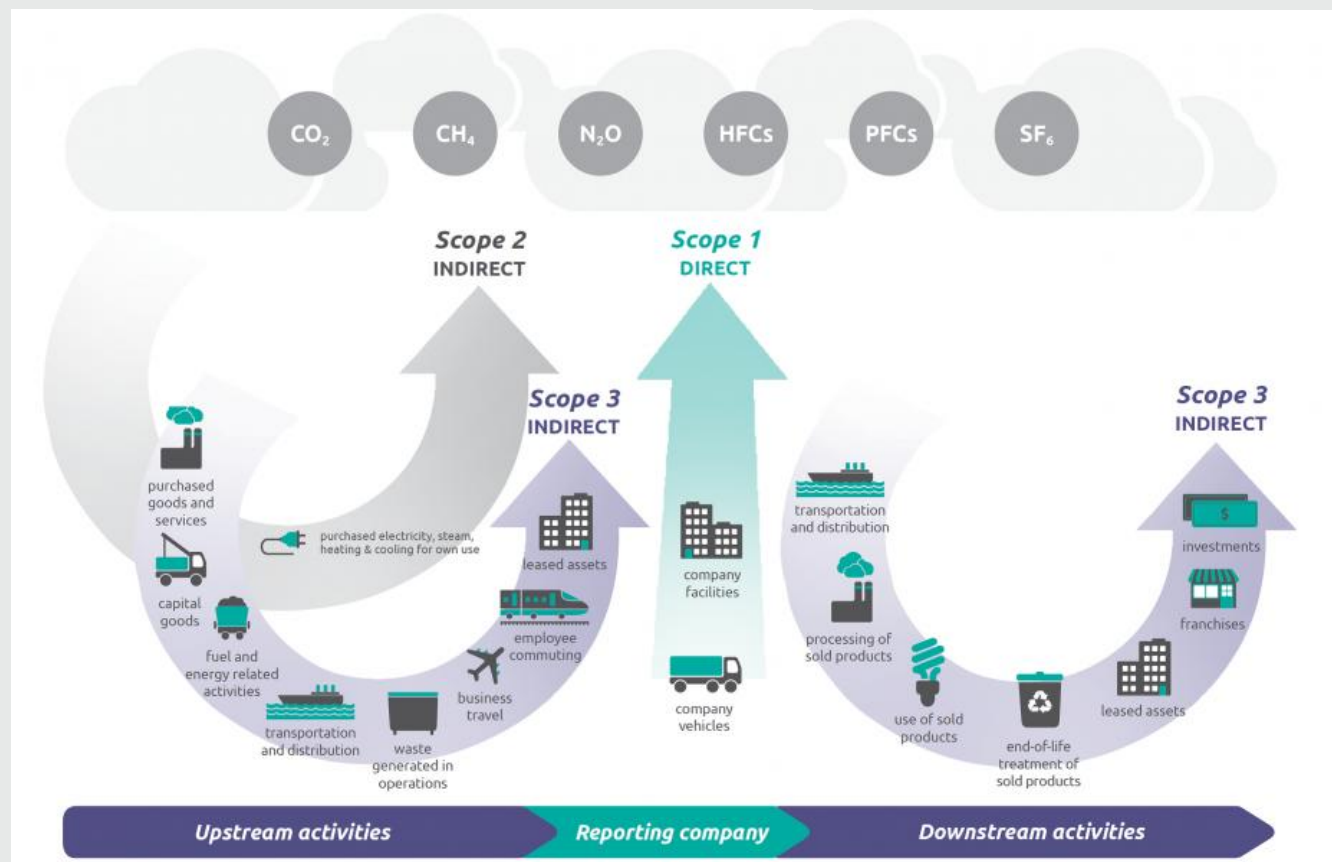
スコープ2

報告企業のエネルギー使用により他者が排出する温室効果ガス

バリューチェーン上の排出量

スコープ3

上流(サプライチェーン)と下流(製品の使用)の両方の排出を含む、報告企業のバリューチェーンで発生するすべての間接的なGHG排出(スコープ2には含まれません)。



- 「購入した商品やサービスからの排出」は、スコープ3の主要なカテゴリーの1つです。
- サプライヤーのスコープ1および2は、顧客企業のスコープ3に該当します。
- バリューチェーンの排出量(スコープ3)は、多くの場合、企業にとって最大のGHG影響となります。

ポイント:排出データ - スコープ1



スコープ1排出量とは、組織が管理または所有する排出源から発生する直接的な温室効果ガス(GHG)排出量を指します。

例:

- 電気、熱、蒸気を発生させるための燃料(ボイラー、炉など)の燃焼。
- 材料、製品、廃棄物、従業員の輸送のための燃料(トラック、自動車など)の燃焼。
- 化学物質および材料(セメント、アルミニウムなど)の製造または加工。
- 意図的または非意図的な放出による一時的な排出(例:冷蔵または空調からのHFC排出、ガス輸送からのメタン漏れ)。

完全版	SME版
7.6	20.4

スコープ1排出量の算定方法は、公表されている排出係数(DEFRAなど)を用いてCO₂換算した商用燃料(ガス、灯油など)の購入量に基づく直接測定を含みます。

参考資料:

1. [GHGプロトコル 企業排出量算定・報告基準 \(英\)](#)
2. [GHGプロトコル ツールおよび排出係数 \(英\)](#)
3. [スコープ1および2の温室効果ガスインベントリに関するガイダンス \(英\)](#)
4. [スコープ1トレーニング \(英\)](#)
5. [EPA簡易排出量計算ツール \(英\)](#)
6. [SME Climate Hub カーボン計算ツール \(英\)](#)
7. [GHG排出量算定 \(入門編\) - 日本語](#)

スコープ1の算定手法

活動データと排出係数に基づく推定

活動データとは？

排出を伴う活動からのデータ
例: ガソリン使用量(ガロン)

活動データの一般的なスコープ1の発生源

- ガスメーターおよびガス料金請求書
- 燃料費の請求書および領収書
- 燃料の配送
- EPRデータ
- Fガス登録簿

排出係数とは？

特定の排出源における平均排出率。
特定の活動によって大気中に温室効果ガス(GHG)が放出される割合を表す。

排出係数は、活動データを排出量に変換する
特定の単位で表され、

- 例: 飛行1キロメートルあたりのCO₂排出量(キログラム)
- ガソリン1リットルあたりのCO₂排出量(kg)

排出係数はどこで確認できる？

政府機関や政府間機関など、様々な組織によって公表されている。

最終的な排出量は、
二酸化炭素換算トン単位で報告される。



活動データ
(MWh)

x

排出係数
(tCO₂e/MWh)

=

排出量
(tCO₂e)

排出係数の例

- GHGプロトコル計算ツールおよびガイドランス

セクター横断ツール- 排出係数

- IPCC - 排出係数データベース
- IEA - 排出係数(パイロット版)
- 政府機関 - 国別
(例:英国のDefra、米国のeGRID
およびUS EPA)

セクター別情報源:

- WBCSD 持続可能なセメント・イニシアティブ
- 国際石油業界団体
(International Petroleum Industry)
- 国際アルミニウム協会
(International Aluminum Institute)



GHG Protocol tools enable companies and cities to develop comprehensive and reliable inventories of their GHG emissions, and help countries and cities track progress toward their climate goals.

Calculating emissions is a multi-step process. An accurate and useful inventory can only be developed after careful attention to quality control issues and to the activity data required. Only then should emissions be estimated. Companies should consult GHG Protocol's **Corporate Accounting and Reporting Standard** for guidance on the entire inventory development process.

Below is a complete listing of all tools developed by GHG Protocol. Our tools enable companies to develop comprehensive and reliable inventories of their GHG emissions. Each tool reflects best-practice methods that have been extensively tested by industry experts. Many tools are accompanied by a PDF guidance document, which provides step-by-step guidance on the use of a tool and need to apply more than one tool to cover

There are different resources for navigating

- **Cross-sector tools:** Applicable to many sectors.
- **Country-specific tools:** Customized for a specific country.
- **Sector-specific tools:** Principally designed for a specific sector, though they may be applicable to other sectors.
- **Tools for countries and cities:** The tools are designed to help countries and cities track progress toward their climate goals.

Review Service




The "Built on GHG Protocol" mark recognizes tools and guidance that are in conformance with a GHG Protocol standard.

Disclaimer

Before using these tools, please read our [disclaimer](#).

CROSS-SECTOR TOOLS

These tools are applicable to many industries and businesses regardless of sector.
Note: International emission factors for electricity use are no longer available from the GHGP website and can be purchased from the IEA.

 Emission Factors This workbook contains cross-sector emission factors and unit conversions that can be used to estimate emissions from stationary combustion, purchased electricity, and mobile combustion. Download Worksheet Date: May 7	 GHG Emissions from Stationary Combustion (English) Download Guidance Date: Feb 28 Download Worksheet Date: Mar 17	 GHG Emissions from Stationary Combustion (Chinese) Download Worksheet Date: Mar 17
--	---	---

ポイント：排出データ – スコープ2



スコープ2排出量とは、電気、蒸気、熱、または冷却の購入に関連する間接的なGHG排出量を指します。

例:機械を操作するために購入した電気、照明、電気自動車の充電など

完全版
7.7

SME版
20.5

スコープ2排出量の算出方法としてGHGプロトコルでは、活動量データ(例:電力消費量のMWh)に供給元固有の排出係数を乗じて、電力使用によるGHG排出量を把握することを推奨しています。活動量データを特定するには、電力量がMWhまたはkWh単位で明記された電気の使用量の計測値や公共料金の請求書が、最も正確な活動量データを提供します

参考資料:

1. [CDPテクニカルノート:スコープ2排出量の算定 \(英\)](#)
2. [GHGプロトコル スコープ2ガイダンス \(英\)](#)
3. [スコープ2トレーニング \(英\)](#)
4. [EPA簡易排出量計算ツール \(英\)](#)
5. [スコープ1および2の温室効果ガスインベントリ・ガイダンス \(英\)](#)
6. [GHG排出量算定 \(入門編\) - 日本語](#)

スコープ2の算定手法

ロケーション基準のスコープ2排出量

→ 報告組織に電力を供給する電力網の平均排出係数を考慮する。
(主にグリッド平均排出係数データを使用)

活動データを決定するには、MWh または kWh 単位で消費量が明記された、検針済みの電力消費量または公共料金の請求書が、最も正確な活動データとなる。

マーケット基準のスコープ2排出量

→ 企業が購入の決定を通じて責任を負う排出量が表示される。報告組織が再生可能エネルギーなどの特定の供給者または供給源から電力を調達する契約上の取り決めを考慮する。

より詳細かつ正確な手。これにより、開示者はエネルギー投資の成果を評価され、要請元からその進捗を認められるようになる。

スコープ2の算定手法

活動データと排出係数に基づく推定

活動データとは？

購入および消費された電力量
(メガワット時:MWh)

排出係数とは？

特定の送電網、開示主体、または発電源について、所定の期間における1MWhあたりの排出量の平均値。

最終的な排出量は、二酸化炭素換算トン(メトリックトン)で報告される。

スコープ2の一般的な活動データ源

計測された電力消費量

消費量が明記された公共料金の請求書

活動データ
(MWh)

x

排出係数
(tCO₂e/MWh)

=

排出量
(tCO₂e)



ポイント：排出データ – スコープ3



スコープ3、バリューチェーン排出量-事業に関連して発生するが、所有または管理していない排出源からの他のすべての排出量。

例:

購入した商品とサービス、輸送と流通、および販売された製品の使用

完全版 7.8	SME版 20.7
------------	--------------



スコープ3排出量の算定方法として、GHGプロトコルは、企業の事業活動の上流および下流における15の活動カテゴリーを含むScope 3スタンダードを提供しています。関連するすべての計算方法に関する詳細なテクニカルガイダンスは、スコープ3基準の補足文書であるスコープ3テクニカルノートに記載されています。

参考資料:

1. [CDPのスコープ3カテゴリーテクニカルノート\(英\)](#)
2. [温室効果ガスプロトコル 企業バリューチェーン\(スコープ3\)算定・報告基準\(英\)](#)
3. [温室効果ガスプロトコル スコープ3算定ガイダンス\(英\)](#)
4. [ウェビナー:スコープ3の影響の算定と削減方法\(英\)](#)

ポイント: 検証



GHG排出量データの検証/保証は、CDPに認定を受けた独立した第三者によって実施されるプロセスです。

完全版 7.9	SME版 20.8
------------	--------------

検証が重要な理由:

- 内部プロセスの改善
- ステークホルダー(顧客、投資家など)に対するデータの信頼性の向上
- リスクと機会の特定
- 評価の向上、競争優位性の獲得
- 規制および法令への整合(例:非財務報告)
- 運用上の排出量の正確な把握

このような理由から、CDPは環境報告におけるグッドプラクティスとして検証と保証を推奨しています。検証情報は、完全版質問書のスコアリング基準の中でも非常に重要です

参考資料:

1. [CDP検証ガイダンス\(日\)](#)
2. [気候データの第三者検証がもたらすビジネス上のメリット](#)
3. [CDP検証に関するよくある質問\(英\)](#)



ポイント： 排出原単位



原単位算定は、組織のCO2e排出量を別のビジネス指標との関連で示します。

このようにして、排出量は事業の成長を考慮して正規化されます。貴社の排出原単位の数値により、顧客は業界内および業界間で貴社のパフォーマンスをベンチマークすることができます

完全版
7.45

SME版
該当なし



排出原単位は、CO2e排出量の数値(分子)を別のビジネス指標(分母)で割って計算されます。

例:

- 売上あたり
- フルタイム換算従業員数(FTE)あたり
- 生産単位あたり
- トン、メートル、リットル、またはその他の生産指標あたり

ヒント:

1. 売上単位あたりの排出原単位は、排出原単位を計算する最も一般的で簡単な方法の1つです。そのため、この数値を提供するよう求められます。
2. 売上の数値が、排出量データと同じ組織境界を参照していることを確認してください。
3. 通貨と測定単位が正しいことを確認してください。

ポイント：排出原単位算出の例



完全版 7.45	SME版 該当なし
-------------	--------------

売上高を用いた排出強度の計算式

$$\text{GHG排出原単位 (MT CO}_2\text{e/売上高)} = \frac{(\text{スコープ1総排出量}) + (\text{スコープ2総排出量})}{(\text{年間総売上高})}$$

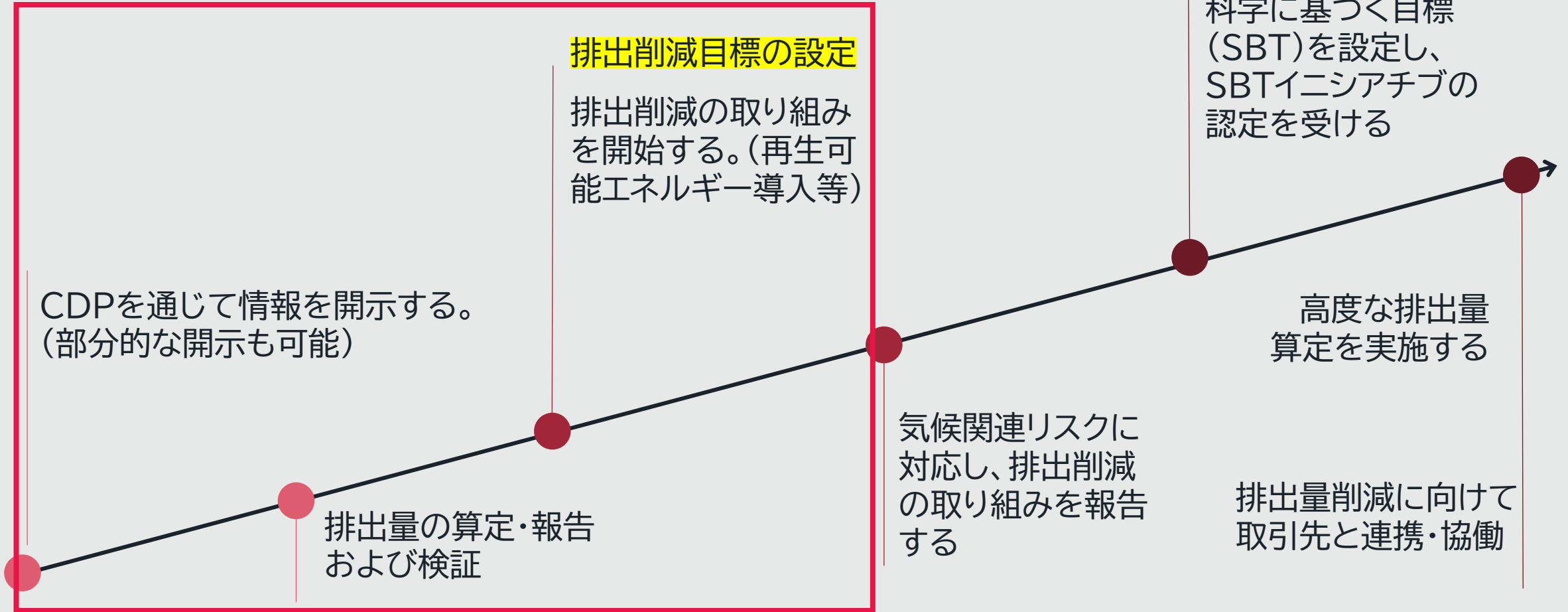
売上を用いた排出原単位の計算例

$$0,06 \text{ MT CO}_2\text{e / €} = \frac{300,000 \text{ メートルトン CO}_2\text{e}}{5,000,000 \text{ 円}}$$

開示者向けロードマップ



本セッションの範囲:



フェーズ1: 基盤の確立

フェーズ2: 能力の構築

フェーズ3: パフォーマンス向上

ポイント: 排出削減目標



目標設定は、排出削減に取り組む意思を示すとともに、環境戦略に方向性と枠組みを提供します。

完全版 7.53	SME版 20.16
-------------	---------------

排出削減目標の構成要素:

- 目標の種類:
 - 絶対値(トンCO₂ e)
 - 排出原単位(活動単位当たりのCO₂ eトン)
- 基準年
- 目標年
- 対象範囲
- 基準年からの削減目標(%または Mt CO₂ e)

ベストプラクティス:

- パリ協定の目標(地球温暖化を産業革命前比で2°Cを大幅に下回る水準に抑え、1.5°Cに抑えるための努力を追求すること)を達成するために必要な、最新の気候科学に沿った目標を設定すること。
- 詳しくはSBTiのウェブサイトの詳細を参照。



目標の例

目標タイプ	基準年	目標年	スコープ	削減目標 (%または Mt CO ₂ e)
絶対値	2020	2030	スコープ1	30%

A社は、2020年を基準年として、2030年までにスコープ1の温室効果ガス排出量を30%削減する。

目標の例

部分的なスコープ・対象範囲の網羅

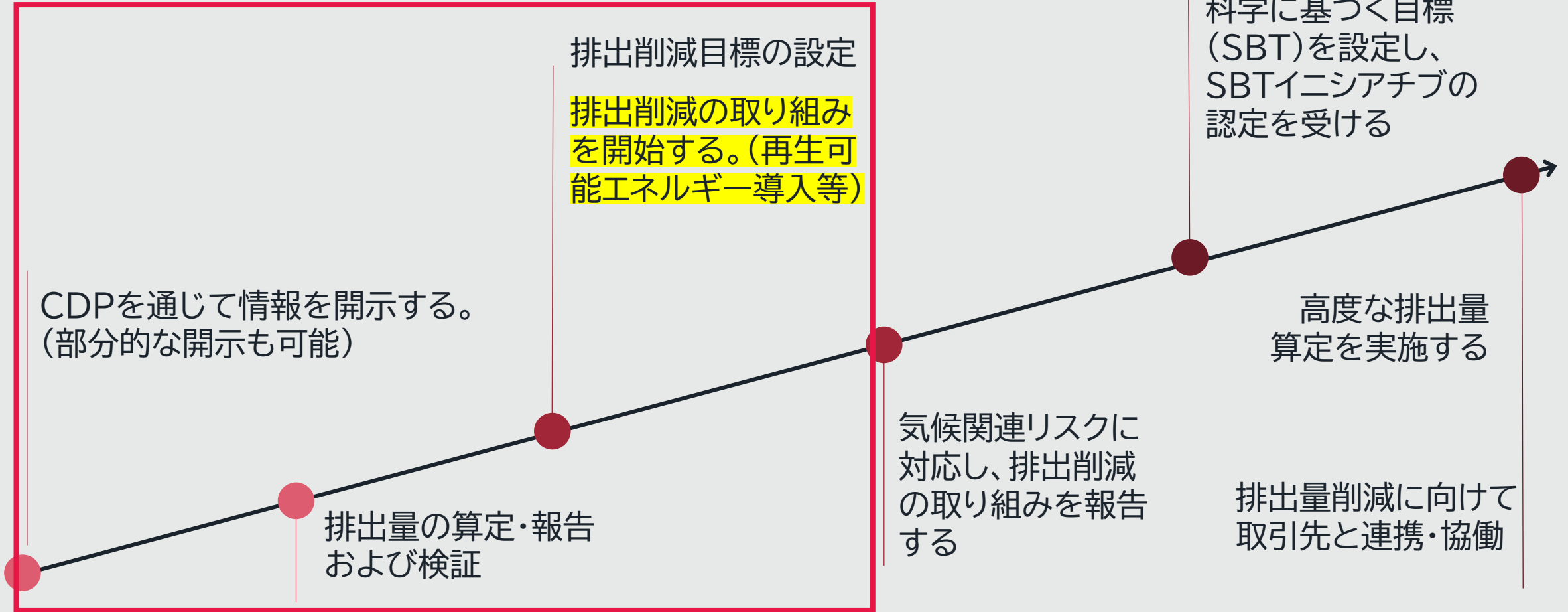
目標タイプ	基準年	目標年	スコープ	対象範囲	削減目標 (% または Mt CO ₂ e)
絶対値	2020	2030	スコープ1	国内配送車両	30%

A社は、2020年を基準年として、2030年までに国内配送車両からの
スコープ1温室効果ガス排出量を30%削減します。

開示者向けロードマップ



本セッションの範囲:



フェーズ1: 基盤の確立

フェーズ2: 能力の構築

フェーズ3: パフォーマンス向上



ポイント: 排出削減の取り組み

排出削減の取り組みを報告することは、貴組織が排出削減のために講じている具体的な行動を示すものです。

報告年度中に完了した取り組みの詳細を報告:

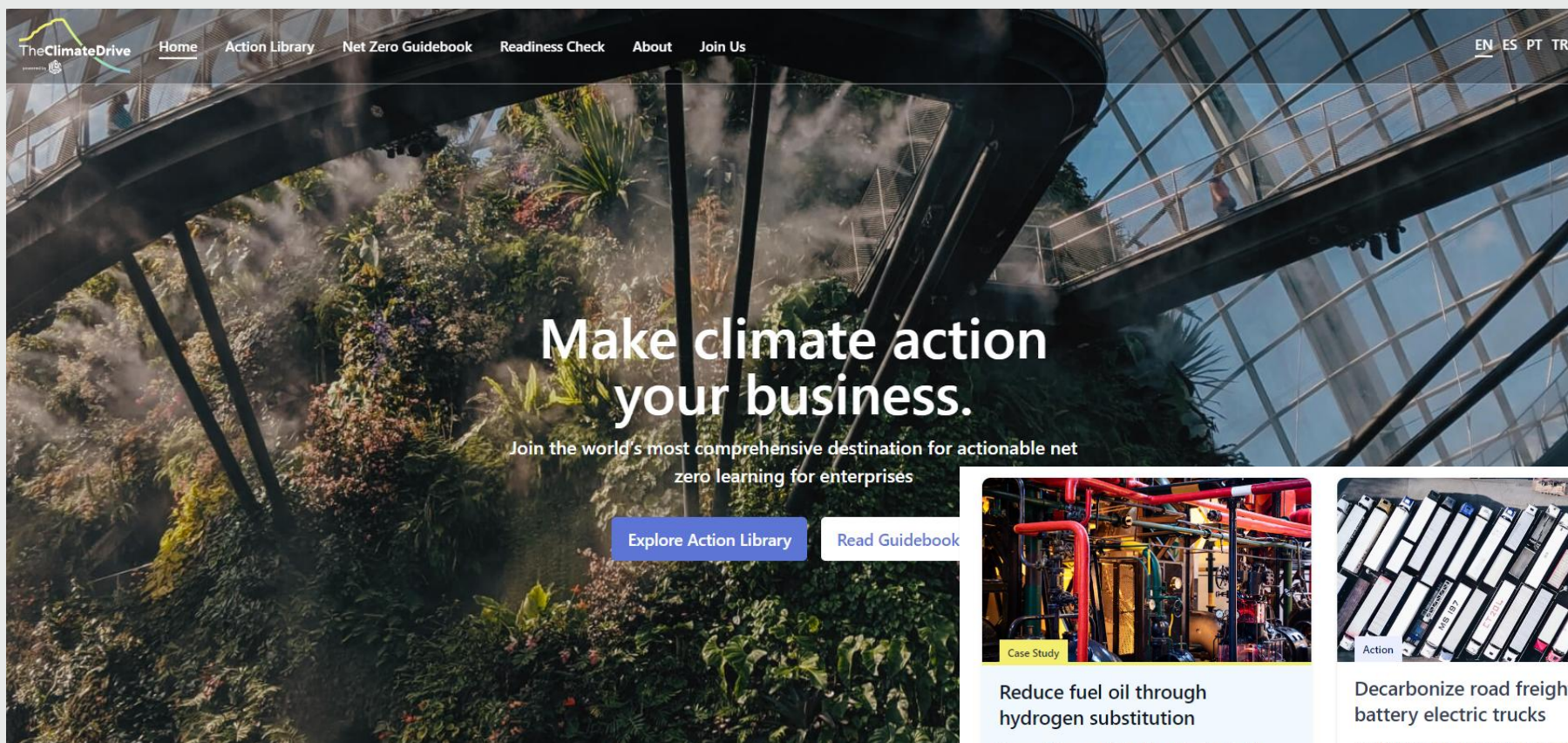
- 取り組みのカテゴリーおよび種類
- 推定年間CO₂e削減量
- 対象範囲
- 年間コスト削減額
- 回収期間

完全版 7.55	SME版 20.17
-------------	---------------







例:

- 生産プロセスのエネルギー効率化:
機械・設備の更新(例:石油ボイラーからヒートポンプへの更新)、
プロセスの最適化
- 建物設備のエネルギー効率化:
エネルギー監査、建物の断熱、空調設備の改善
- 輸送:
燃料の種類変更(例:ディーゼルからバイオ燃料への切替)、
車両のEVへの置き換え
- 低炭素エネルギー消費・発電:
再生可能エネルギーへの切り替え、太陽光パネルの設置
- 廃棄物削減と資材の循環利用:
化学的リサイクルプログラム、包装の最適化

排出量削減の取り組みのためのアクション・ライブラリ



WBCSDの「The Climate Drive」 から詳細を確認(英)

 <p>Case Study</p> <h3>Reduce fuel oil through hydrogen substitution</h3> <p>By retrofitting an oil-fired lime kiln, the Pacifico pulp mill aims to reduce fuel oil consumption and GHG emissions by using residual hydrogen from a nearby sodium chlorate plant.</p> <p>APPLIED BY  Empresas CMPC S.A.</p> <p>Retrofitting Hydrogen</p> <p>Last updated on: 21/11/2023</p>	 <p>Action</p> <h3>Decarbonize road freight with battery electric trucks</h3> <p>A switch from ICE to BEV trucks in transportation, using electric motors, can reduce direct fuel combustions emissions from fossil fuels</p> <p>EXPLAINED BY  WBCSD</p> <p>Freight Electric Vehicles</p> <p>Last updated on: 31/10/2022</p>	 <p>Action</p> <h3>Transition to a just, net-zero, and nature positive economy</h3> <p>Addressing the climate emergency and nature loss is impossible without putting people at the center and ensuring a just transition that is equitable and inclusive for all.</p> <p>EXPLAINED BY  WBCSD</p> <p>Just transition</p> <p>Last updated on: 21/11/2023</p>
--	---	--

ポイント:再生可能エネルギー



再生可能エネルギーの使用状況を報告することで、顧客はサプライヤーの排出量の削減を追跡し、化石燃料への依存度に関連するリスクのレベルを評価することができます。

再生可能エネルギーとは、風力、太陽光、水力、地熱、持続可能なバイオマス、海洋(潮力および波力エネルギー)など、枯渇しない資源から得られるエネルギーです。

化石燃料に由来している廃エネルギーや水素は含まれません

完全版 7.30	SME版 20.15
-------------	---------------

方法論:

- すべての再生可能エネルギーデータをメガワット時(MWh)で入力する必要があります。生データがギガジュール(GJ)や英国熱量単位(Btu)など、MWh以外のエネルギー単位である場合は、MWhに変換する必要があります。

- 他のエネルギー単位の換算係数は、IEAやOnlineConversion.comなどのさまざまなオンライン計算ツール、またはEPA AP-42(付録A)などの換算表から入手できます。

参考資料:

- CDPウェビナー:再生可能エネルギーにおけるリーダーシップ:100%達成とサプライチェーンへの波及(英)
- ガイダンス:CDPテクニカルノート:燃料データのMWhへの換算(英)

再生可能 エネルギー

消費エネルギー



電力、熱、蒸気、および冷房に消費された総エネルギー

購入エネルギー



熱、蒸気、および冷房用の購入エネルギー
スコープ2排出量

自社生成エネルギー



自家発電など組織が自ら生成したエネルギー
スコープ1排出量

初心者向け重要データポイント



アクション・項目	質問番号 (完全版)	質問番号 (SME版)	サプライヤーが回答する意義
CDPに開示する (可能であれば回答を公開)			CDPへの開示は、自社の環境への影響や関係性に対する理解を深めるのに役立ちます。公開開示は、ステークホルダーが自社の目標を理解するのに役立ちます。
スコープ1&2の排出量	7.6 7.7	20.4 20.5	排出量の報告はベストプラクティスであり、環境への悪影響を理解し、削減するための前提条件です。検証によりデータの品質が保証されます。
可能であれば スコープ3排出量を報告	7.8	20.7	スコープ3の算定は、包括的な排出量インベントリに不可欠であり、サプライヤーとの連携、リスク管理および削減の機会を可能にします。

フェーズ1:
基盤の構築

要請元にとって
重要な利用可能な
データポイント
を収集する

排出量算定を開始する

初心者向け重要データポイント



アクション・項目	質問番号 (完全版)	質問番号 (SME版)	サプライヤーが回答する意義
排出量の検証	7.9	20.8	CDPIは、検証を、温室効果ガス排出データの保証を行う認定を受けた独立した第三者機関によって実施されるプロセスとみなしています。
排出原単位および／または割り当て排出量の報告	7.45 7.26	- 20.12	取引先のニーズに応えるため、売上高あたりの排出原単位を提供するか、7.45 で自ら排出量を配分することにより、サプライチェーン(スコープ 3)排出量のモデリングにご協力ください。

フェーズ2:
能力の構築



包括性とデータの
信頼性を高める

初心者向け重要データポイント



アクション・項目	質問番号 (完全版)	質問番号 (SME版)	サプライヤーが回答する意義
排出削減目標を報告	7.53、 7.53.1 7.53.2	20.16 20.16.1 20.16.2	目標設定は、排出削減に取り組むという意思を示すものであり、環境戦略に方向性と枠組みを与えます。
排出削減の取り組み	7.55、 7.55.1 7.55.2	20.17 - 20.17.1	要請元は、サプライチェーンにおける排出量の削減を目指しています。この質問の回答により、目標達成に向けた排出量削減の取り組みや、その効率化によるコスト削減効果を提示することになります。
エネルギー報告	7.30 7.30.1	20.15.1 20.15.2	再生可能エネルギーの利用状況を報告することで、要請元は自社の開示対象排出量の削減状況を追跡し、化石燃料への依存に関連するリスクのレベルを評価するのに役立ちます。

フェーズ2:
能力の構築

目標と取り組み
を設定する。再生
可能エネルギーを
調達する

計画と具体的な
行動の実施



開始ステップと主なリソース



報告に関するヒント

- 空白のセル、誤り、不整合を避けてください。

スコアリング基準とガイダンスを参照して質問書を確認し、各質問のすべての基準を満たしていることを確認してください。

- 質問書内の**本のアイコン(ブックアイコン)**をクリックして、各質問のガイダンスを開いてください。

定性的な回答については、明確な説明、根拠、および自社固有の回答を記載してください。

- ステークホルダーへの働きかけおよび質問書回答を担当する**チームメンバー**を特定し、**割り当ててください**。

CDP 2026 開示情報:
重要な日程、ガイダンスやリソースへのリンク、主な変更点などが含まれます。

開示方法:
開始方法のステップバイステップガイド、CDPの技術的ガイダンスなどを掲載しています。

CDP質問書、スコアリング基準
およびガイドライン



マイポータルから 公開回答を検索

2025年の質問書への回答

10,000を超える2025年の質問書への「公開」回答のリストを開覧し、表示したい回答を追加してください。

回答を開覧

あと100個の回答を表示できます

貴社のメンバーシップで利用できる100個中0個の回答に既にアクセスしています。

選択済みの回答が表示されます。

質問書にアクセス

2026年6月に情報開示サイクルが開始した後でのみ可能となるステップがあります。それまでは次のステップを確認し、準備を整えてください。

2026年6月にサイクルが開始します

1 情報開示提出責任者

2 質問書を設定

1件の回答要請があります

1の組織が貴組織にCDPを通じて情報を開示するよう要請しています。

CCDP

回答要請を確認

回答事務費用

CDPを通じて環境情報の開示をする場合、対象企業には回答事務費用が発生します。非営利団体として、CDPの運営資金は、幅広い出資により構成されています。回答事務費用は、CDPがグローバル規模で継続的にサービスを提供し続けるための運営コストに充てられます。

費用が選択されていません

事務費用のオプションを見る

データ・プロダクトとレポート

CDP旧プラットフォームにあるすべてのデータ・プロダクトと情報開示データを表示します。

2025年の質問書への回答 **新規**

組織が公開した回答を表示/ダウンロードする国/地域と事業活動に基づいて回答を選び、条件が類似した組織の回答を見ることができます。

回答を表示

表示する回答を選択する

国/地域、産業、活動に基づいて回答を選び、条件が類似した組織の回答を見ることができます。リストには2025年の質問書に対して一般に公開されたすべての回答が含まれ、2025の組織情報が表示されます

あと100個の回答を表示できます

貴社のメンバーシップで利用できる100個中0個の回答に既にアクセスしています。

回答を検索

国

産業

活動グループ

More filters

11533 results

<input type="checkbox"/>	組織名	国/地域	主要産業	主要活動グループ	主要活動
<input type="checkbox"/>	' LAJOSMIZSEI FOLPLAST ' Műanyagfeldc	Hungary	Manufacturing	Plastic product ...	Plastic products
<input type="checkbox"/>	(ACIP) Alexandria Company for Industrial	Egypt	Manufacturing	Plastic product ...	Plastic products
<input type="checkbox"/>	(SAMOA) FLOURISH THRIVE DEVELOPME	Taiwan, China	Manufacturing	Leisure & home ...	Sporting goods
<input type="checkbox"/>	100 PERCENT GROUP LIMITED	United Kingdom	Services	Web & marketin...	Marketing
<input type="checkbox"/>	1000mercis SA (holding of Numberlv)	France	Services	IT & software de...	Software



CDPのヘルプセンター ご利用方法

- <https://help.cdp.net/>
- ナレッジベース:すぐに役立つセルフヘルプ記事
- 「マイサポート」- ログイン後、CDPへのチケットを発行できるようになり、アカウントにリンクされた問い合わせが可能。
- 多言語対応:英語、中国語(簡体字)、日本語、ポルトガル語、スペイン語



CDPサプライヤー・サポート・トレーニングのご案内

CDPは、要請のあったサプライヤーに環境報告の利点や、質問書の重要項目等を知っていただくために、複数の言語でサプライヤーのグループトレーニングを開催しています。

シリーズ名	日付範囲
2026年情報開示サイクルの紹介	6月中旬～下旬
SMEシリーズ:気候変動 SMEシリーズ:水セキュリティとフォレスト	6月中旬～下旬
気候変動:初心者向け 気候変動:経験者向け	6月中旬～下旬
水セキュリティ	6月中旬～下旬
フォレスト	6月中旬～下旬

地域登録ページ	対応言語
アジア太平洋	英語
中国	マンダリン
ヨーロッパ	英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語
日本	日本語
ラテンアメリカ	ブラジル・ポルトガル語
ラテンアメリカ	スペイン語
北米	英語



リソース

2026年の情報開示のためのリソース

- [質問書と報告ガイダンス](#)
- [CDP2026質問書における変更点](#)
- [CDPの開示およびスコアリング関連資料](#)
- [CDP ヘルプセンター](#)および[サポートチケット用ナレッジベース](#)
- [よくある質問\(FAQ\)](#)

[CDP炭素会計ウェビナー](#)（英）

- [GHG排出量算定（入門編）](#)
- [スコープ1排出量トレーニング](#)（英）
- [スコープ2排出量トレーニング](#)（英）

GHG排出量算定資源と科学に基づく目標

- [EPA温室効果ガス排出量計算機](#)（英）
- [GHGプロトコル企業基準](#)（英）
- [GHGプロトコル計算ツール](#)（英）
- [中小企業気候ハブ計算機](#)（英）
- [科学に基づく目標に関するCDPテクニカルノート](#)（英）
- [よくある質問-科学に基づく目標イニシアティブ](#)（英）



スコアリング対象となる

回答提出期限

2026年9月14日の週



よくある質問

- 質問書全体に回答できない場合はどうすればよいですか？
 - CDPでは、まったく回答しないよりも、部分的な回答の提出を推奨しています。
 - 報告負担を軽減するために、取引先から指定された重要な質問に優先的にご回答ください。
 - 初めのご回答において完璧さは求めません。できる限りの対応をお願いしております。
- 回答事務費用を支払う必要がありますか？
 - 2026年、取引先の企業からのみ要請を受けて回答する場合は、回答事務費用を支払う必要はありません。
 - 一方で、CDPキャピタルマーケットツ署名機関からも情報開示を求められている場合には、回答事務費用のお支払いが必要となります。

詳細な説明については、CDPのウェブサイト [「FAQs\(よくあるご質問\)」](#)をご参照ください。



よくある質問

- 非英語圏の国に拠点がある場合でも、CDPはサポートしてくれますか？
 - CDPには、サプライヤーがCDPの情報開示要請を理解できるように支援するグローバルスタッフが在籍しています。現地でのサポート依頼や、各国で開催されるワークショップやウェビナーについて知りたい場合は、多言語に対応している[CDPヘルプセンター](#)をご利用ください。
 - CDPは質問書の回答を支援する複数のガイダンス文書も公開しています。
- データ保護および機密性について懸念があります。
 - サプライチェーンの質問で報告されたデータおよび情報は、要請元企業にのみ公開されます。他の企業はその情報にアクセスできません。
 - 取引先からのみ要請を受けている場合、Aスコアを除き、スコアは公開されません。(Aスコアは公開されます。)
 - CDP質問書に関する利用規約は[こちら](#)でご覧いただけます。



本日はご参加いただきありがとうございました。

ご不明点ございましたら、ポータルにサインイン後、
ヘルプセンターよりお問い合わせください。

